

先進的あるいは特色ある教育課程	学校名等	課程
「学習評価の充実」	埼玉県立南稜高等学校	全日制普通科・外国語科

ア 取組状況について

① 教育課程

(教育課程編成)

- ・本校は昭和55年創立。現在各学年とも普通科8クラス、外国語科1クラス計27クラス規模の全日制・普通科高校である。現在ALTが2人配置されている。
- ・新教育課程においては、普通科は2学年まではほぼ共通な教育課程編成、3学年では文・理の2系統として進路を見据えた選択科目を設置。外国語科は1学年から総合英語等専門科目を履修。2、3学年は第2外国語(中、独、仏、西、韓朝)を含め外国語を11単位ずつ履修。また校内スピーチコンテスト、イングリッシュキャンプ、コロナ禍で実施できていないがオーストラリア短期派遣(希望者)などを行っている。

(授業展開)

- ・各学年31単位授業。生徒の家庭学習の定着が課題でありそのための工夫を行っている教員や、コロナ対応と生徒の主体的な学習との両立に苦心しながら取り組んでいる授業も多い。
- ・ICTの積極的な活用に取り組んでいる。状況により授業のリモート配信、課題の配信や提出、授業以外でも諸連絡や保護者対象説明会のリアルタイム配信など。

② 教員の指導力向上

(教員研修)

- ・令和3年度6月に授業公開週間にあわせ教員研修を実施。新学習指導要領における評価の3観点での評価の観点、方法、時期などについて、主に各教科で協議と情報交換を行った。
- ・県教育委員会から示されている説明や資料、或いは学習指導計画、学習評価計画、評価規準の形式の参考様式を随時教務や各教科に提示し、校内の運用を念頭に検討を進めた。特別活動や総合的な探究の時間は外部ツールによる支援も含めて検討した。
- ・観点別評価と評定の関係性の整理については、ベースとなる情報や試案を管理職から示し、質疑や意見交換を行った。それらを踏まえ最終的に管理職が整理して職員に示した。
- ・各観点を具体的にどのように把握し評価するか、個別の研究や取組から、まだ十分とは言えないが各教科の特性や学習内容を踏まえて、共通理解をとり進めている。

(外部人材の活用)

- ・昨年度は県教育局の学校訪問があった際に指導をいただいた。

③ 校内組織

- ・教務担当教頭と教務主任を中心に具体的な各教科の動きについては教科主任を窓口とした。従って昨年度後半の検討は教科主任会を軸として進めた。特別活動や総合的な探究の時間は教務や関係する委員会において検討を行った。
- ・また、校内授業公開週間にあわせて行う教員研修に関しては、教務部内の担当が教務主任、管理職と調整しながら進めている。

④ 施設設備

- ・全普通教室へのプロジェクタ、アクセスポイント、オンライン授業に活用するBYOD回線が整備された。今年度入学生から全員クロームブックを購入してもらい、授業、HR・学年運営、諸連絡等教育活動で活用することとしている。

⑤ 取組の成果の(都道府県)全体への普及・共有方法

- ・校長協会教育課程部会にて報告、共有を図っている。

イ 今後の課題

- ・評価規準等について、生徒・保護者への説明責任をしっかりと果たせるよう、今後も不断の検討と改善を継続することが必要である。
- ・指導と評価の一体化を踏まえ、授業改善と生徒の学力向上を全教科足並み揃えて進めることが肝要である。